

14時30分解禁

平成26年10月 全国百貨店売上高概況

平成26年11月19日

I. 概況

1. 売上高総額	4,783億円余
2. 前年同月比	-2.2% (店舗数調整後/7か月連続マイナス)
3. 調査対象百貨店	83社 238店 (平成26年9月対比-1社2店)
4. 総店舗面積	6,095,772㎡ (前年同月比:-2.3%)
5. 総従業員数	78,458人 (前年同月比:-3.0%)
6. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	3-5月 4.1%、4-6月 -6.9%、5-7月 -3.7%、 6-8月 -2.6%、7-9月 -1.3%、8-10月 -1.1%

[参考] 平成25年10月の売上高増減率は-0.6% (店舗数調整後)

【10月売上の特徴】

天候不順の影響で7か月連続のマイナスとなり、減少率も-2.2%と前月(-0.7%)から1.5ポイント水準を下げる結果となった。

本年10月は、月の前半週末毎に2つの台風(18号・19号)が相次いで上陸したことで、特に西日本では営業時間を短縮する店が出るなど、入店客数に大きな影響を受けた。下旬からは気温低下に伴い、主力の重衣料など季節商材に動きが見られたほか、各店が集客・販促施策を積極展開したこともあって増勢に転じたが、最終的には、前半の不振をカバーするまでには至らなかった。これにより本年1月-10月累計売上高は、4兆9,436億円余(前年同期比:店舗数調整後+0.7%/店舗数調整前+0.4%)となった。

地区別では、大都市(10都市:-0.9%)と地方(10都市以外:-4.8%)共に前年実績を下回った。大都市が前月(-0.2%)並みに推移した一方、地方経済の回復の遅れなどを背景に、地方店は前月(-1.8%)から3ポイントほど減少幅を広げている。

商品別には、主力の衣料品(-2.8%)をはじめ主要5品目いずれも前年実績を下回ったが、好調なアイテムとしては、インバウンドの活況もあって化粧品(+6.4%)が4か月連続で増勢を強めているほか、訪日土産需要のある菓子(+0.4%)も前年実績をクリア。なお、身のまわり品(-1.2%)と雑貨(-0.6%)についても、前年の高伸を考慮すると、一昨年比ではプラスとなっている。

訪日外国人売上高は、10月の免税制度改正による品目拡大効果と中国の国慶節休暇が重なり、売上高(+118.3%)・購買客数(+152.2%)共に一段と増勢(21か月連続プラス)を強め、単月で過去最高の売上高(約86億円)を記録するなど、引き続き大都市の商況を底上げしている。

【要因】

- (1) 天候 : 気象庁発表「10月の天候」の特徴は以下のとおり(一部抜粋)
 - ◇ 相次いで上陸した台風18号・19号の影響で、全国的に降水量が多かった。北日本と東日本日本海側では高気圧に覆われ晴れの日が多かった。気温は北日本で寒気の影響から低温となったが、他地区では平年並みであった。
- (2) 営業日数増減 30.9日(前年同月比±0.0日)
- (3) 土・日・祝日の合計 9日(// ±0日)
- (4) 入店客数増減(回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数135店舗)
 - ①増加した:29店、②変化なし:30店、③減少した:76店
- (5) 10月歳時記(体育の日、旅行シーズンの売上(同上/有効回答数100店舗)
 - ①増加した:10店、②変化なし:52店、③減少した:38店

NEWS LETTER

全国百貨店 売上高速報 2014年10月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ()が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	478,344,255	100.0	-2.2 (-2.5)
10都市	322,608,965	67.4	-0.9 (-1.1)
札幌	12,540,071	2.6	-1.3
仙台	7,077,105	1.5	-0.3
東京	123,268,526	25.8	-0.1
横浜	28,254,525	5.9	-0.8
名古屋	29,880,481	6.2	-2.7
京都	18,715,845	3.9	-9.2 (-11.9)
大阪	64,832,152	13.6	0.4
神戸	12,362,954	2.6	-0.1
広島	10,049,279	2.1	-1.4
福岡	15,628,027	3.3	2.1
10都市以外の地区	155,735,290	32.6	-4.8 (-5.4)
北海道	2,709,493	0.6	-7.7
東北	8,441,449	1.8	-3.4
関東	73,499,020	15.4	-5.5 (-5.3)
中部	12,243,189	2.6	-3.5
近畿	15,499,580	3.2	-4.9
中国	11,286,905	2.4	-2.3
四国	8,087,410	1.7	-3.3 (-10.0)
九州	23,968,244	5.0	-5.3 (-7.3)

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	478,344,255	100.0	-2.2 (-2.5)
紳士服・洋品	38,081,394	8.0	-0.8 (-1.0)
婦人服・洋品	115,733,270	24.2	-2.7 (-3.1)
子供服・洋品	10,959,308	2.3	-5.0 (-5.2)
その他衣料品	12,157,403	2.5	-7.8 (-8.0)
衣 料 品	176,931,375	37.0	-2.8 (-3.1)
身のまわり品	60,736,052	12.7	-1.2 (-1.4)
化粧品	28,174,422	5.9	6.4 (6.2)
美術・宝飾・貴金属	25,095,184	5.2	-6.4 (-6.8)
その他雑貨	18,390,145	3.8	-2.3 (-3.1)
雑 貨	71,659,751	15.0	-0.6 (-1.1)
家 具	5,575,361	1.2	-11.9 (-12.3)
家 電	1,660,817	0.3	12.3 (12.2)
その他家庭用品	15,117,842	3.2	-5.6 (-5.9)
家 庭 用 品	22,354,020	4.7	-6.2 (-6.5)
生 鮮 食 品	25,094,853	5.2	-3.5 (-4.1)
菓 子	28,798,027	6.0	0.4 (0.1)
惣 菜	29,763,596	6.2	-0.2 (-0.4)
その他食料品	36,025,666	7.5	-2.7 (-3.1)
食 料 品	119,682,142	25.0	-1.5 (-1.9)
食 堂 喫 茶	12,916,966	2.7	-4.0 (-4.2)
サ ー ビ ス	5,560,434	1.2	-4.9 (-4.9)
そ の 他	8,503,515	1.8	-3.3 (-3.7)
商 品 券	10,600,482	2.2	-3.4 (-3.5)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計に消費税は含まれておりません。

Ⅱ. 地区別の動き

- | | |
|------------------|--------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | －0.9% (店舗数調整後／2か月連続マイナス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | －4.8% (店舗数調整後／7か月連続マイナス) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	－0.9	－0.6	2か月連続マイナス
札幌	－1.3	0.0	7か月連続マイナス
仙台	－0.3	0.0	7か月連続マイナス
東京	－0.1	0.0	3か月ぶりマイナス
横浜	－0.8	0.0	2か月連続マイナス
名古屋	－2.7	－0.2	2か月ぶりマイナス
京都	－9.2	－0.4	7か月連続マイナス
大阪	0.4	0.1	4か月連続プラス
神戸	－0.1	0.0	2か月連続マイナス
広島	－1.4	0.0	7か月連続マイナス
福岡	2.1	0.1	2か月ぶりプラス
10都市以外の地区	－4.8	－1.6	7か月連続マイナス
北海道	－7.7	0.0	7か月連続マイナス*
東北	－3.4	－0.1	7か月連続マイナス*
関東	－5.5	－0.9	7か月連続マイナス
中部	－3.5	－0.1	2か月ぶりマイナス
近畿	－4.9	－0.2	7か月連続マイナス
中国	－2.3	－0.1	7か月連続マイナス*
四国	－3.3	－0.1	3か月ぶりマイナス
九州	－5.3	－0.3	7か月連続マイナス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行した。(2005年までは6大都市)

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目は、7月以来3か月ぶりに全品目がマイナスとなった。また、化粧品が4か月連続のプラスと先月よりさらに改善し、菓子が5か月ぶり、家電が2か月ぶりのプラスとなった。その他では、先月よりその他雑貨と惣菜のマイナス幅が縮小した。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-2.2	—	7か月連続マイナス
紳士服・洋品	-0.8	-0.1	3か月ぶりマイナス
婦人服・洋品	-2.7	-0.7	2か月ぶりマイナス
子供服・洋品	-5.0	-0.1	2か月連続マイナス
その他衣料品	-7.8	-0.2	2か月ぶりマイナス
衣料品	-2.8	-1.0	2か月ぶりマイナス
身のまわり品	-1.2	-0.1	2か月連続マイナス
化粧品	6.4	0.3	4か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	-6.4	-0.4	7か月連続マイナス*
その他雑貨	-2.3	-0.1	2か月連続マイナス*
雑貨	-0.6	-0.1	2か月連続マイナス
家具	-11.9	-0.2	7か月連続マイナス
家電	12.3	0.0	2か月ぶりプラス
その他家庭用品	-5.6	-0.2	2か月連続マイナス
家庭用品	-6.2	-0.3	7か月連続マイナス
生鮮食品	-3.5	-0.2	7か月連続マイナス*
菓子	0.4	0.0	5か月ぶりプラス*
惣菜	-0.2	0.0	2か月連続マイナス*
その他食料品	-2.7	-0.2	7か月連続マイナス*
食料品	-1.5	-0.4	7か月連続マイナス
食堂喫茶	-4.0	-0.1	7か月連続マイナス
サービス	-4.9	-0.1	5か月連続マイナス
その他	-3.3	-0.1	2か月連続マイナス
商品券	-3.4	-0.1	44か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

平成26年10月 東京地区百貨店売上高概況

平成26年11月19日

I. 概 況

1. 売上高総額	1,232億円余
2. 前年同月比	-0.1% (3か月ぶりマイナス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭0.3%(90.6%) : 非店頭-3.5%(9.4%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成26年9月対比±0店)
5. 総店舗面積	855,076㎡ (前年同月比:-2.3%)
6. 総従業員数	18,940人 (前年同月比:-1.0%)
7. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	3-5月 4.3%、4-6月 -6.3%、5-7月 -3.2%、 6-8月 -1.6%、7-9月 0.0%、8-10月 0.5%

[参考] 平成25年10月の売上高増減率は1.2% (店舗数調整後)

【10月上の特徴】

- (1) 東京地区の入店客数は、全国同様に2つの台風の影響を受けたものの、地方物産展や各種セール催事などの集客施策を積極展開したことで、前年並みの水準に収まった。
- (2) 主力の衣料品(-0.4%)は、天候不順の影響で僅かに前年割れとなったが、紳士(+3.6%)については、スーツ・コート等の重衣料を中心に好調であったほか、婦人(-1.7%)についても、下旬からの気温低下に伴い季節商材に動きが見られた。
- (3) 4か月連続で前年をクリアした化粧品(+12.9%)については、10月からの免税制度改正で、新たに対象品目となった効果などを背景に二桁増を記録。従来の好調な流れに、制度改正による効果が上積みされた結果と分析できる。
- (4) 家庭用品(+1.2%)は、消費税率引上げ後初めて前年実績を上回った。外商による大口受注などから、家電(+26.5%)が大幅増となったことが寄与している。
- (5) 東京地区の11月中間段階(11月16日)までの商況は、前年比1%強のマイナスで推移している。

【要 因】

- (1) 営業日数増減 31.0日 (前年同月比±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数18店舗)
①増加した: 8店、②変化なし: 4店、③減少した: 6店
- (3) 10月歳時記(体育の日、旅行シーズン)の売上(同上/有効回答数10店舗)
①増加した: 2店、②変化なし: 8店、③減少した: 0店

東京地区百貨店 売上高速報 2014年10月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%)
総 額	123,268,526	100.0	-0.1
紳士服・洋品	13,088,440	10.6	3.6
婦人服・洋品	27,242,752	22.1	-1.7
子供服・洋品	2,260,902	1.8	1.5
その他衣料品	2,456,838	2.0	-7.3
衣 料 品	45,048,932	36.5	-0.4
身のまわり品	17,274,323	14.0	0.9
化粧品	7,484,917	6.1	12.9
美術・宝飾・貴金属	7,293,369	5.9	-8.1
その他雑貨	5,669,279	4.6	-0.5
雑 貨	20,447,565	16.6	0.9
家 具	1,603,457	1.3	-3.1
家 電	1,102,441	0.9	26.5
その他家庭用品	4,001,930	3.2	-2.5
家 庭 用 品	6,707,828	5.4	1.2
生 鮮 食 品	4,481,515	3.6	-2.7
菓 子	6,875,649	5.6	1.8
惣 菜	6,960,189	5.6	2.1
その他食料品	7,822,279	6.3	-3.2
食 料 品	26,139,632	21.2	-0.5
食 堂 喫 茶	2,980,664	2.4	-0.9
サ ー ビ ス	2,335,656	1.9	-1.1
そ の 他	2,333,926	1.9	-7.9

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率 (%)

商 品 券	2,278,622 千円	0.4
従 業 員 数	18,940 人	-1.0
店 舗 面 積	855,076 m ²	-2.3

営 業 日 数	31.0 日	前年	31.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、身のまわり品が4か月連続、雑貨が2か月ぶり、家庭用品が7か月ぶりのプラスとなった。また、衣料品、食料品はマイナスとなった。紳士服・洋品、子供服・洋品、化粧品が4か月連続、菓子、惣菜が3か月連続、家電が2か月ぶりのプラスとなった。その他では、先月よりその他雑貨と家具のマイナス幅が縮小した。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-0.1	—	3か月ぶりマイナス
紳士服・洋品	3.6	0.4	4か月連続プラス
婦人服・洋品	-1.7	-0.4	2か月ぶりマイナス
子供服・洋品	1.5	0.0	4か月連続プラス
その他衣料品	-7.3	-0.2	2か月連続マイナス
衣料品	-0.4	-0.1	3か月ぶりマイナス
身のまわり品	0.9	0.1	4か月連続プラス
化粧品	12.9	0.7	4か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	-8.1	-0.5	7か月連続マイナス*
その他雑貨	-0.5	0.0	2か月連続マイナス*
雑貨	0.9	0.2	2か月ぶりプラス
家具	-3.1	0.0	7か月連続マイナス
家電	26.5	0.2	2か月ぶりプラス
その他家庭用品	-2.5	-0.1	3か月ぶりマイナス
家庭用品	1.2	0.1	7か月ぶりプラス
生鮮食品	-2.7	-0.1	7か月連続マイナス*
菓子	1.8	0.1	3か月連続プラス*
惣菜	2.1	0.1	3か月連続プラス*
その他食料品	-3.2	-0.2	7か月連続マイナス*
食料品	-0.5	-0.1	2か月連続マイナス
食堂喫茶	-0.9	0.0	7か月連続マイナス
サービス	-1.1	0.0	2か月連続マイナス
その他	-7.9	-0.2	3か月連続マイナス
商品券	0.4	0.0	2か月連続プラス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・西田まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>